

花と緑を育てる美しいまちを

小林市長は、市議会三月定例会初日の三月三日、平成十年度施政方針を説明しました。この中で市長は、まちの将来像に向かって市民と行政が「つぎに行政改革を着実に推し進める」ことと、人と文化を育てるため「生涯学習の気運を高める」ことを基本に市政を進め、新津らしい美しいまちにして「全国都市緑化にいがたフェア」などのお客様を歓迎したいと述べました。

以下、施政方針の全文を掲載します。なお、平成十年度予算は施政方針の下段で紹介。

本日ここに、新津市議会三月定例会が開催されるにあたり、平成十年度における市政運営の基本的な考え方や主な施策について申し上げ、議員各位はじめ市民の皆さんのご理解とご協力をお願い申し上げます。

思い起こしますと、平成三年三月に市政をお預かりしてから、早七年の歳月が過ぎ去ろうとしてお



ります。まさに「光陰矢の如し」を実感しているところでありました。

この間、果たすべき公約の重みを肝に銘じ、一意専心、渾身の力を注いでまいりました。その評価は、市民の皆さんが判断されることではあります。市勢進展の歴史に、いささかなりとも確かな足跡を記すことができたのではないかと考えております。同時に、多くの皆さんからお寄せいただきました温かいお力添えに、深く感謝を申し上げるところであります。

「私たちのまちは、どんなまちだろう」という問いかけ。毎日暮らす私たちのまちを、もっと知りたい」という気持ち。まちづくりはここから始まると思います。そして、自分たちの足元にある歴史、伝統、風土といったものに気づきがあったときに人は動き、人

「案内のように本年の八月一日から、いよいよ『第十五回全国都市緑化にいがたフェア』が幕を開けます。開催期間中、新津会場を訪れるお客様は、約三十万人と見込んでおりますが、爽やかな思い出を刻んでもうためにも市民の皆さんからは、これまで培った「花と緑を愛する美しいまち・新津」を思い切り自己主張していただきたいと願っているところであります。

昨年来、国・県の公共事業費削減が大きな波紋を投じております。しかし大事なことは、「公共投資は私たちのところへ」という論理を明確に説明できるように、まちの個性を見定めテーマを決めていくことであると思います。

花は静いた種のとおり咲きま

さて時代は、あたかも二十世紀という巨大な百年が生んだ膨大な光と影を繰繰るかのよう、国内外とも激しく揺れ動いております。

こうしたなか自治体には、昔の流れを歴史認識をもって大局的に



見つめ、次の世代に何を引き継ぐべきか、そのために何をしなければならぬかを整理し、未来への道筋をつけていくことが求められております。

近年、高速交通系の整備、情報化、グローバル化の進行によって、人や企業の活動範囲は実に幅広くのものとなりました。またこれに伴って、人々の価値観や生活スタイルは、ますます多様化が進みつつあります。従いましてこれから、既存の行政圏域を越えた視点で自分たちのまちを見つめ、よそのまちの個性を認め、さらには交流を深め合うなかで「一体的発展を目指す『都市間連携』がいつそ大切になってくるものと思われ

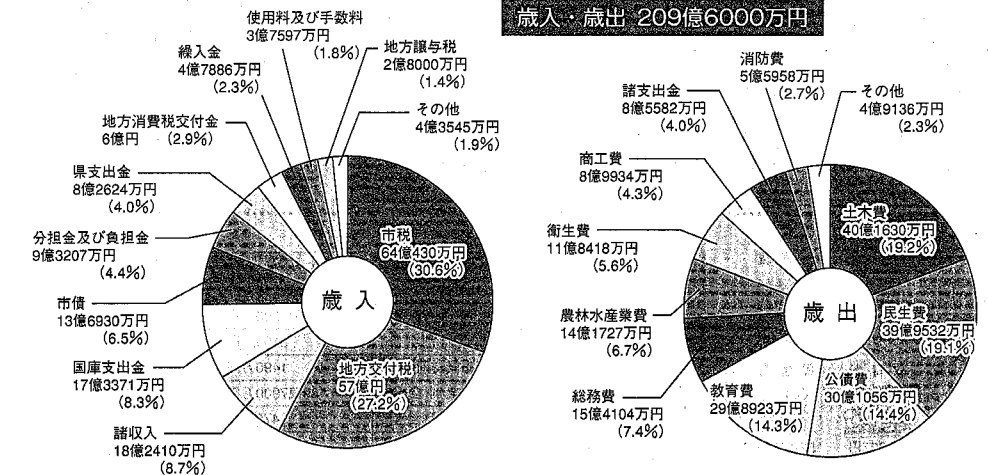
みたいまち、あるいは行きたいまちを住民が自由に選ぶ、いわば都市選択の時代が確実に進行するといふことでもあります。まちの姿を自らの意志と力量で描く地方分権は、この流れを加速させてまいりましょう。そうした意味におきまして、自治体にとっての二十一世紀は、どうしたら生き残れるかという問題と向き合わなければならぬ「都市間競争」の時代でもあると認識いたしております。

この現実に立ち向かうには、かつてのようにも何もかも自分のところで用意する、いわゆる完結型の都市を指向するのではなく、住民と行政が一つになって知恵と工夫の限りを尽くし、目標とする都市像に向かって爾々と歩を進めるものでなければならぬと考えております。そのためには、これまで慣れ親しんできた慣習、価値観と早く決別し、未踏の分野に踏み出していかねばなりません。行政改革が求められる所以がここにもあります。

当市にあてはめれば、今こそまちの将来像「緑の風薫り、笑顔ゆきかう、ふれあい文化都市」を視野の中軸に据え、改革の次に来る未来を信じて汗を流していくときであります。

そこで、迎えます平成十年度の市政を進めるにあたっての基本的な考え方であります。第一は、行政改革を着実に推し進めるとい

一般会計予算の構成比 歳入・歳出 209億6000万円



平成10年度予算の概要

皆さんの税金などは このように使われます

総額約 388億円

三月市議会が平成十年度予算が決定しました。一般会計の予算規模は二百九億六千万円で、平成九年度と同額となっています。特別会計などを含む予算総額は、平成九年度と比べて〇・五割増の三百八十八億九千九百九十四万円となりました。

新年度、施政方針に基づき実施される主な事業とその予算額は次のとおりです。八月一日から県立植物園を新津会場に開催される「全国都市緑化にいがたフェア」の開催支援事業に「一億二千八百三十三万円、駅の東西を結ぶ新津駅歩行者道整備事業に五億六千万円、老朽化した金津中学校の新増設築事業に十一億二千五百五十七万円、吉岡町から第一小学校、西大通りと避難路を結ぶ「防災まちづくり事業」に一億三千万円、石油やぐらや井戸などを整備し、後世に伝える石油文化遺産公園整備事業に九千七百五十万円が予定されています。

このほか、平成十二年度から行われる公的介護保険に備えた事業や福祉サービスの充実などで、福祉関係の予算(民生費)は平成九年度と比べて六・二割増の三十九億九千五百三十二万円となりました。

以下、上段の市長施政方針に沿って予算の概要をご紹介します。(金額は一万円未満を四捨五入)。